

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570101800
法人名	有限会社 ひかり苑
事業所名	グループホーム ひかり苑木花
所在地	宮崎市大字熊野字今江9898番地2 (電話) 0985-58-5298
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年8月1日

## 【情報提供票より】(20年 7月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 27 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.0 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

## (4) 利用者の概要( 7月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	市民の森病院 こざわ内科 杉本外科胃腸科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市の南部、木花総合運動公園が近くにあり、静かで落ち着いたある住宅地の中にホームは立地している。地域住民の一員として近隣の木花駅の清掃や公道のグリーンベルトの花植え等を職員と一緒に参加して地域住民との交流に努めている。また家族には毎月、利用料請求書と一緒に利用者の暮らしぶりや健康状態を手紙で伝え家族との信頼関係を深めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価については、運営推進会議や職員会議に報告し話し合いは行われているが、改善に向けた取り組みが充分ではない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は計画作成担当者を中心に作成し、その結果を職員に説明しているが、職員の意識や理解が充分ではない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、自治会長、民生委員等が参加してホームの運営状況や課題等について話し合い、その結果を踏まえてサービスの向上に活かす努力をしている。今後さらにメンバーに地域包括支援センターの職員の参加を求め、広く地域に開かれたホームになるよう取り組んでほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議のメンバーである自治会長と民生委員に第三者相談窓口になってもらい、家族の意見や不満が出やすい雰囲気づくりに努めているが、あまり意見が出ない状況にある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として地区の自治会に加入しており、近隣の木花駅の清掃や公道のグリーンベルトの花植え等に利用者と職員と一緒に参加して地域住民との交流に努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、「利用者の尊厳ある暮らしとケアの充実」を理念としてサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	利用者が住み慣れた地域の中で安心して暮らし続ける事ができるように、全員で理念について話し合い、これまでの理念の見直しを行ってほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の見やすいところに掲示し理念の実現に向けて取り組んでいるが、地域密着型サービスの意味が管理者、職員共に理解が若干不足している。	○	地域密着型サービスの理解に努め、管理者と職員が理念を共有して、日々のケアに活かすかす努力を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として地区の自治会に加入しており、近隣の木花駅の清掃や公道のグリーンベルトの花植え等に利用者と職員と一緒に参加して地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は計画作成担当者を中心に作成し、結果を職員に説明はしているが、職員の意識や理解が充分ではない。又、外部評価は運営推進会議に報告は行っているが、改善に向けた取り組みが不足している。	○	外部評価、自己評価共に評価の意義とねらいについて、運営者を含めて全員で話し合い、サービスの質の確保、向上に向けて積極的に取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、自治会長、民生委員等が参加してホームの運営状況や課題等について話し合い、その結果を踏まえてサービスの向上に活かす努力をしている。		運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの職員の参加を求め、広く地域に開かれたホームになるよう取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、運営上の課題や疑問点等について、電話で相談できる関係は築かれている。運営推進会議に参加をお願いしているがまだ実現していない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族に利用料請求書と一緒に手紙で暮らしぶりや金銭管理等について報告している。また、家族の来訪時にも健康状態等についてきめ細かに伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーである自治会長と民生委員に第三者相談窓口になってもらい、家族の意見や不満が出やすい雰囲気づくりに努めているが、あまり意見が出ない状況にある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者のダメージを防ぐために、異動や離職を最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に職員が参加できるように配慮している。また、研修の結果は職員全員に報告している。		職員が少ないため、外部研修参加には限界があると思われるので、施設内での研修の工夫も期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の地区ブロック会に毎回参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に体験利用を行ったり、職員が病院や自宅を訪問して徐々に馴染めるように配慮し、家族と相談しながら安心して利用できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごしながら、昔の料理方法や着物の着付け、たたみかた、言葉づかい等を学びお互いの信頼関係を築きながら共に支えあう関係づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の日々の行動や表情の中から希望や思いを把握できるように努めている。また、家族の来訪時にも暮らし方の希望等について話し合いを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議で検討し、利用者、家族と話し合い、職員のアイデアを反映した利用者本位の介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1回見直し、状況の変化が見られる場合は随時見直しを行っている。		さらに状態の変化のない場合にも月に1回のモニタリングと計画の見直しの取り組みを検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院や外泊、外出等多機能を活かした柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本としており、1週間～2週間に1回かかりつけ医の往診をほとんどの利用者が受けている。又、緊急時の対応や気軽に相談できる関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、本人、家族、かかりつけ医、職員と具体的な話し合いを行い方針は共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないように配慮している。また、秘密保持の徹底も図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や希望にあわせ、買物や散歩等自由に自分のペースで楽しく暮らせるように柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの希望や好みに配慮したメニューを工夫し、職員と同じ食卓を囲んで楽しく食事をしているが、職員は弁当を持参している。	○	職員一人でも利用者と同じものを一緒に楽しく食べることが出来ないか検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回～4回としているが、希望があればいつでも入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	プランターの花の手入や利用者が飼育している犬とのふれあい、裁縫、詩吟等一人ひとりの役割、楽しみごとを作り出す働きかけを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーでの買物や公園での散歩、ドライブ等希望に応じてできるだけ戸外に出かけられるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成しており、年1回～2回災害訓練を実施している。自治会や近隣の住民にも協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分の摂取状況チェック表で管理しており、一人ひとりの嗜好を献立に採り入れた食事の内容となっている。	○	栄養の専門的な観点から、定期的に栄養士のチェックをお願いしてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、食堂が若干狭く窮屈な面があるが、季節の花々が飾られ、日本庭園風の庭の眺めが良好で、落ち着いた家庭的な雰囲気があり、利用者が安心して過ごせる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や使い慣れた鏡台、テーブル、小物等が持ち込まれ、居心地よく生活できるように工夫されている。		